

アージャー・ソーニヤーツァー・ディヌ

この日は黄金の日！

雲はそのひだを開いて

そのネクターを私に降り注いでいる。

私は神を見た！ 私の神——ハリ——を見た。

神は内側にいる。

神は外側にいる。

神はあらゆる場所、空間、ものに浸透している。

私のマインドの源で、

ヴィタール神に会った、

まばゆい光を放ち

しっかりとれんがの上に立っていた。

聖人たちと共にいることは

祝福の中でも最も貴重なことである。

崇敬される聖人たちの前で、

神はその姿を明らかにした

私の心の中に。

女神ルクミニーの最愛のヴィタール神は、

私にとって父である。

彼は慈愛の海である。

彼は恩恵の海である。

翻訳© 2020 SYDA Foundation®.著作権所有。

シャーンバヴィー・クリスチャンによる紹介

もしあなたが、『シュリー・バガヴァッド・ギーター』についての詩的な注釈書である、ニャーネーシュワル・マハーラージによる『ニャーネーシュワリー』を読む機会があったなら、マハーラーシュトラのこの尊敬される 13 世紀の詩聖がどのように教え、今日でも教えているかを、自ら体験する幸運を持っていたということです。単純であると同時に崇高なマラーティー語の詩を通して、とても見事な隠喩の使い方を通して、その鋭い洞察を通して、神を見つける方法についての知識をそれぞれの人を受け取るようにという自らの哀れみ深い意図を、彼は伝えています。彼のどの言葉も神聖な英知と献身で満たされています。

これはまた、ニャーネーシュワル・マハーラージが、彼の多くのアバンガ、すなわちマラーティー語の献身の歌で教えている方法でもあります。それらの歌の一つ、「アージー・ソーニヤーツァー・ディヌ」を通して、私は初めて彼に出会いました。1980 年代初期のある日、グルデーヴ・シッダ・ピートゥでのサツァングで、グルマーイがシッダ・ヨーガのミュージシャンの一人にそれを歌うように言いました。それに耳を傾けていると、その意味は理解できなかったにもかかわらず、とても強く心を動かされました。それから間もなく、ダルシヤンの間にバジャンやアバンガを歌って音楽のセーヴァーをささげ始めたので、この素晴らしいアバンガを学び、しばしば歌いました。実際、毎年毎年——毎回のようにはダルシヤンの間に——ダルシヤンのアシスタントの

一人が、「アージー・ソーニヤーツァー・ディヌ」を歌うようにと要請するグルマールからのメモを私に持って来たものです。

数年後に、私は「This Day is a Golden Day この日は黄金の日」という翻訳を英語で歌ったものさえ作り、録音もしました。(その CD は、シッダ・ヨーガ・ブックストアで購入できます)

なぜ私は、このアバंगाをそれほど愛しているのでしょうか。それが、シッダ・ヨーガの道をたどり、シュリー・グルマールの恩恵を受け取った私の体験をよく表しているからです。それは私自身の心の歌なのです。

シッダ・ヨーガのミュージシャンたちが歌うメロディーは、バイラヴィー・ラーガでヒリダヤナート・マンゲーシュカルが作曲したものに基づいています。バイラヴィーは「ラーガの女王」として知られ、甘美な切望に彩られた深い献身のラサを表現しています。

このアバंगाに添えられている画像は、アランディにあるニャーネーシュワル・マハーラージのサマーディ・シュラインを描いています。写真は1969年に、バーバ・ムクターナンダがこの不滅の詩聖をたたえるために訪れた時に撮影されました。。



© 2021 SYDA Foundation®. 著作権所有。

『Janeshuwar's Gita ニャーネーシュワルのギター』は、スワミ・クリッパナンダによる『ニャーネーシュワリ』の翻訳で、シッダ・ヨーガ・ブックストアで購入できます。